

法務省“社会を明るくする運動”中央推進委員会主催

第６９回“社会を明るくする運動”作文コンテスト

**あたたかい気持ちの連鎖を始めよう**

　札幌・二瓶　晴嬉

「犯罪や非行のない地域社会を築こう」というフレーズから、私は去年の冬、母に連れられて行った市内のある町内会のイベントで犯罪学者の小宮教授の防犯の講演と、教授とその町内会の人達のパネルディスカッションを聞き、ウォーキングバスの活動を知った時のこと思い出しました。

ウォーキングバスはその名の通り、歩くバスです。地域の人達が一緒に楽しく歩くことを通じて、町の安心安全づくりなどを目的に進められている活動で、イギリスで始まり世界中に広がっているそうです。この町内会では、子どもの登校時にウォーキングバスを定期的に実施し、身近に起こりうる犯罪から子ども達を守ってきました。集団登校を思い浮かべるかもしれませんが、集団登校は緊急時に行うのに対し、ウォーキングバスは平常時に行われるというのが特徴です。平常時に実施することにより、地域の皆の絆づくりというのも、一つの大きな目的になっています。この町内会では、この活動を十年続けているそうです。

小学生の頃にこのウォーキングバスを利用していた二人の中学生が、パネルディスカッションで「地域の大人や他学年の子と仲良くなれるのがとても楽しかった」「地域の人達に守られている安心感が嬉しかった」と話していました。私が一番驚いたのは、ウォーキングバスを利用していた小学生が、今は中高生になり、町内会の活動を自主的に手伝うようになっているということでした。町内会の手伝いなんて面倒くさそう！そんなことを自分からやるなんて！と、びっくりしました。

この二人の中学生によると、ウォーキングバスを通じて、温かい目を向けてくれたり、声をかけておしゃべりしてくれたり、一緒に歩いて、いつも見守ってくれた地域の人達が、自分達を大切にしてくれたことがとても嬉しかったそうです。そして自分達もそうなりたい、地域の為に自分も何かしようと思い始め、自然と高学年は低学年のめんどうをよくみるようになり、中学生は町内会行事を手伝いに集まり、高校生は町内会の役員も担うようになっていったそうです。

そういえば私も一年生の頃、ちょっとしたことを助けてくれる高学年のお姉さんに憧れて、自分もいつか下の学年の子に優しくしようと思ったことがあります。「そうか！ありがとうとか嬉しいという思いは、誰かにつなぎたくなくなるんだ！あたたかい気持ちは連鎖するんだ！」私はそう気がついて、なんだかすごくわくわくしてきました。

あたたかい気持ちが連鎖するなら、地域の子どもを犯罪から守りつつ、大人と子どもも顔見知りになり繋がっていくことができるウォーキングバスは、さらに地域の中に犯罪や非行をおこす悪い心の芽を摘むことにもなるということです。もしも暗い気持ちを抱えて犯罪や非行に向かってしまいそうな人がいても、地域の皆が顔見知りで、いつも声をかけ合えるようになっていたら、周りの誰かが暗い気持ちに気が付いてあげられたり、大丈夫？と声をかけて、その暗い気持ちから抜け出す助けや支えになれることでしょう。

周りの人と人が繋がり、あたたかい気持ちの連鎖をいくつも作ることで、社会はぐっと明るくなりそうです。

しかし私達子どもは、何か事件が起こるたびに大人達から口をすっぱくして「知らない人と話してはいけません」と言われています。自分の身を守るため、知らない人に用心することはとても重要です。私達子どもから誰にでも声をかけるというのは少し危険です。

だけれど私も地域の人達と繋がりたい。地域の大人や子どもと顔見知りになって、おしゃべりをしてみたい。私も繋がることで、誰かの心をあたたかくしたり、私も誰かにあたためられたい。私達子どもはどうしたら良いのでしょう？

やっぱりこのような点からも、私達子どもも安心安全に地域の人達と出会って仲良くなれるウォーキングバスの仕組みは、本当に良くできていると思います。もっと市内のあちこちの町内会でやってほしい！

誰かのあたたかい気持ちは、他の誰かの心をぬくもりで包みます。犯罪や非行から立ち直りたい人達の心をもあたたかく支えることでしょう。

人と人が繋がることは、誰にでもできる「犯罪や非行のない地域社会を築く」大きな力です。残念ながら今、私の住んでいる地域にはウォーキングバスはないけれど、いつか大きくなったら私も自分の住んでいる地域にウォーキングバスを提案しようと思います。また小学生の今の私にもすぐできる「人と人が繋がることからあたたかい気持ちがつながっていく最初の一歩」のアイデアを考えて、私もふみ出してみようと思います。